

インタビュー／整備機器企業のトップに聞く

小野谷機工

代表取締役社長COO

宇田 公郎氏



専務取締役

左膳 妥友氏

自動車産業にとっても新型コロナウイルスの影響が続いた2021年。厳しい環境下であっても小野谷機工(株)(福井県越前市)は様々な対応策を図りながら、2022年以降につながる施策を展開してきた。2021年10月には新たな経営体制をスタートさせ、「チームオノダニ」として持続的な成長を目指していく方針を打ち出した。宇田公郎代表取締役社長COOと左膳妥友専務取締役に2021年の振り返りと今後の展望を聞いた。

——2021年を振り返って課題と成果は。

宇田社長「新型コロナウイルスにより販売と生産は大きな影響を受けました。当社の製品はお客様の設備投資に関係してきますので、まずはその投資計画を見直しの影響がありました。売上は特に2月以降に影響が広がった印象です。新年度に入り設備投資が抑制され

タイヤサービスを支える 整備機器企業 2022年の展望

少しずつ需要が戻ってきています。タイヤ販売が順調に回復すれば、機材関連も先行きが見通せるようになります。

一方で訪問活動に制限があってもお客様へ情報をお伝えすることはできます。当社はコロナ以前からウェブサイトを制作の専任者を置き、オンラインの活用も積極化してきました。

お客様へ向けてはウェブサイトをより充実させました。製品動画を拡充するとともに、今までは紙でお渡ししていた取扱説明書を電子化し、お客様が確認できるコーナーを設けました。さらに、簡単なメンテナンスであれば自身で行えるよう保守点検のコーナーも新たに追加しています。

おお客様へ向けてはウェブサイトをより充実させました。製品動画を拡充するとともに、今までは紙でお渡ししていた取扱説明書を電子化し、お客様が確認できるコーナーを設けました。さらに、簡単なメンテナンスであれば自身で行えるよう保守点検のコーナーも新たに追加しています。

生産体制の改革がコロナ禍で活きる

——コロナの生産面への影響は。

宇田社長「当社は協力会社を通じて部品を調達しますが、その中には東南アジアなどで製造される部品も含まれます。今回のようなコロナ感染拡大によるロックダウンはサプライチェーンの混乱を招き、大きなマイナスとなっています。また中国の電力不足、原材料の価格高騰も対応に苦

——コロナの生産面への影響は。

宇田社長「当社は協力会社を通じて部品を調達しますが、その中には東南アジアなどで製造される部品も含まれます。今回のようなコロナ感染拡大によるロックダウンはサプライチェーンの混乱を招き、大きなマイナスとなっています。また中国の電力不足、原材料の価格高騰も対応に苦

さされて以降は、ウェブサイトにアクセスが戻ってきています。対前年同月比では1〜2割以上伸びており、動画のアクセス数も多い時は月に5000件ほど視聴して頂いています。お客様向けの情報をタイムリーに発信するなど、こうした取り組みの一つひとつが当社の姿勢につながりますので、今後も充実させていきたいと思います。

また、社内では情報共有を図るためにオンライン会議を増やしています。従来の集合形式では2〜3割程度しか開催できなかったのに対し、オンラインでは毎月会議ができるようになりました。個別の打ち合わせも必要に応じてすばやく対応できるようにしています。こうしたメリットを生み出せるようになりましたし、社員教育や若手社員の研修も一部はオンラインを取り入れていっています。

工場は数をこなすことで生産性が向上しますが、その途中で電話対応や発注業務を担っているとしても業務に影響が出てしまいます。生産の実務と管理を兼任するのではなく、しっかりと分けなければモノづくりの専念できません。9月以降は部品によっては在庫がいつ無くなってもおかしくない状況が続いていますが、管理部門で調達も含めて対応しました。その分、生産

工場は数をこなすことで生産性が向上しますが、その途中で電話対応や発注業務を担っているとしても業務に影響が出てしまいます。生産の実務と管理を兼任するのではなく、しっかりと分けなければモノづくりの専念できません。9月以降は部品によっては在庫がいつ無くなってもおかしくない状況が続いていますが、管理部門で調達も含めて対応しました。その分、生産

工場は数をこなすことで生産性が向上しますが、その途中で電話対応や発注業務を担っているとしても業務に影響が出てしまいます。生産の実務と管理を兼任するのではなく、しっかりと分けなければモノづくりの専念できません。9月以降は部品によっては在庫がいつ無くなってもおかしくない状況が続いていますが、管理部門で調達も含めて対応しました。その分、生産

新体制で次の成長を目指す

——10月末に新しい経営体制が発足しました。

宇田社長「2月にオノダニグループの三村義雄社長が亡くなりました。これまでは創業者が卓越したリーダーシップで価値創造企業として事業を牽引してきましたので、今後成長させていくことが大きな課題となりました。

宇田社長「2月にオノダニグループの三村義雄社長が亡くなりました。これまでは創業者が卓越したリーダーシップで価値創造企業として事業を牽引してきましたので、今後成長させていくことが大きな課題となりました。

宇田社長「2月にオノダニグループの三村義雄社長が亡くなりました。これまでは創業者が卓越したリーダーシップで価値創造企業として事業を牽引してきましたので、今後成長させていくことが大きな課題となりました。

産する側はモノづくりに専念できるように、この仕組みは正解だったと思っています。因だと感じています。

現在、部品調達は徐々に戻ってきましたが、完全には回復していません。様々な製品へ波及しないように対応することが一番の課題になっています。

宇田社長「供給面でお客様へご迷惑をお掛けしましたが、今後しっかりとリカバリーして信頼をうなぎとめていきたいですね。当社は8月末が決算ですが、サービス機器事業はほぼ前年度並みの売上げを確保できました。また、廃タイヤ処理・更生タイヤ関連機械など環境機器事業は、お客様にマッチした製品を送り出すことができ、売上高は過去最高を達成しました。

宇田社長「供給面でお客様へご迷惑をお掛けしましたが、今後しっかりとリカバリーして信頼をうなぎとめていきたいですね。当社は8月末が決算ですが、サービス機器事業はほぼ前年度並みの売上げを確保できました。また、廃タイヤ処理・更生タイヤ関連機械など環境機器事業は、お客様にマッチした製品を送り出すことができ、売上高は過去最高を達成しました。

宇田社長「供給面でお客様へご迷惑をお掛けしましたが、今後しっかりとリカバリーして信頼をうなぎとめていきたいですね。当社は8月末が決算ですが、サービス機器事業はほぼ前年度並みの売上げを確保できました。また、廃タイヤ処理・更生タイヤ関連機械など環境機器事業は、お客様にマッチした製品を送り出すことができ、売上高は過去最高を達成しました。

今後とも顧客の声を第一に

——2021年11月に小野谷機工が創立50周年を迎えましたが、率直な思いを。

左膳専務「これまでは創業者が牽引してきた50年でした。それが無ければ今はないと思いますし、創業者から常日頃言われていた中で大切にしているものは継承していかなければと思っています。ただ時代は大きく変革し、ただ時代は大きく変革し、人の考え方も徐々に変わってきています。今、私が幹部へ伝えていくのは『我々がその時代に合わせて変えなければだめだ』ということです。

左膳専務「これまでは創業者が牽引してきた50年でした。それが無ければ今はないと思いますし、創業者から常日頃言われていた中で大切にしているものは継承していかなければと思っています。ただ時代は大きく変革し、ただ時代は大きく変革し、人の考え方も徐々に変わってきています。今、私が幹部へ伝えていくのは『我々がその時代に合わせて変えなければだめだ』ということです。

左膳専務「これまでは創業者が牽引してきた50年でした。それが無ければ今はないと思いますし、創業者から常日頃言われていた中で大切にしているものは継承していかなければと思っています。ただ時代は大きく変革し、ただ時代は大きく変革し、人の考え方も徐々に変わってきています。今、私が幹部へ伝えていくのは『我々がその時代に合わせて変えなければだめだ』ということです。

三村健二代表取締役共同会長は「これまで社長として社員ファースト」を経営の柱としてきました。今後も社員の目標で経営ができていくかどうかをチェックする形で参画して頂きます。

2022年の展望を。宇田社長「お客様はもちろんですが、社員に対しても希望を持てるように、未来につながる基盤をしっかり構築していきたいです。

何よりもこれまで50年間事業を継続できたことはお客様のおかげですし、今後も成長していくためにお客様のニーズに対応していくことが大切です。社員が夢を持って仕事に取り組む、それによって新しい景色が見えてくると思っています。皆が自信と誇りを持っていくような施策を今後も実施していきます。

左膳専務「社員ファーストという意味ではコロナが収束した段階で社員旅行を復活させたいと思っています。全国の拠点を働く全社員が年に一度顔を合わせる貴重な機会ですし、それを楽しみにしている社員もいます。そして、以前のような営業活動ができるようになってほしいとも思います。当社は開発部門や製造部門の社員もお客様の声をもとに訪問してデモ活動やメンテナンス、あるいは商談の場に同席するスタイルを継続してきました。

左膳専務「社員ファーストという意味ではコロナが収束した段階で社員旅行を復活させたいと思っています。全国の拠点を働く全社員が年に一度顔を合わせる貴重な機会ですし、それを楽しみにしている社員もいます。そして、以前のような営業活動ができるようになってほしいとも思います。当社は開発部門や製造部門の社員もお客様の声をもとに訪問してデモ活動やメンテナンス、あるいは商談の場に同席するスタイルを継続してきました。

時代の変化に対応し創造を

宇田社長「今回の50周年は特別でした。節目の年に創業100年に一度の変革期に入っています。さらに、コロナによって世の中全体が大きく変化しました。

宇田社長「今回の50周年は特別でした。節目の年に創業100年に一度の変革期に入っています。さらに、コロナによって世の中全体が大きく変化しました。

宇田社長「今回の50周年は特別でした。節目の年に創業100年に一度の変革期に入っています。さらに、コロナによって世の中全体が大きく変化しました。

時代の変化に対応し創造を

これからの50年は変化が更に大きくなるかもしれません。創業者の志を引き継ぎ、ただ私たち一人ひとりが変化

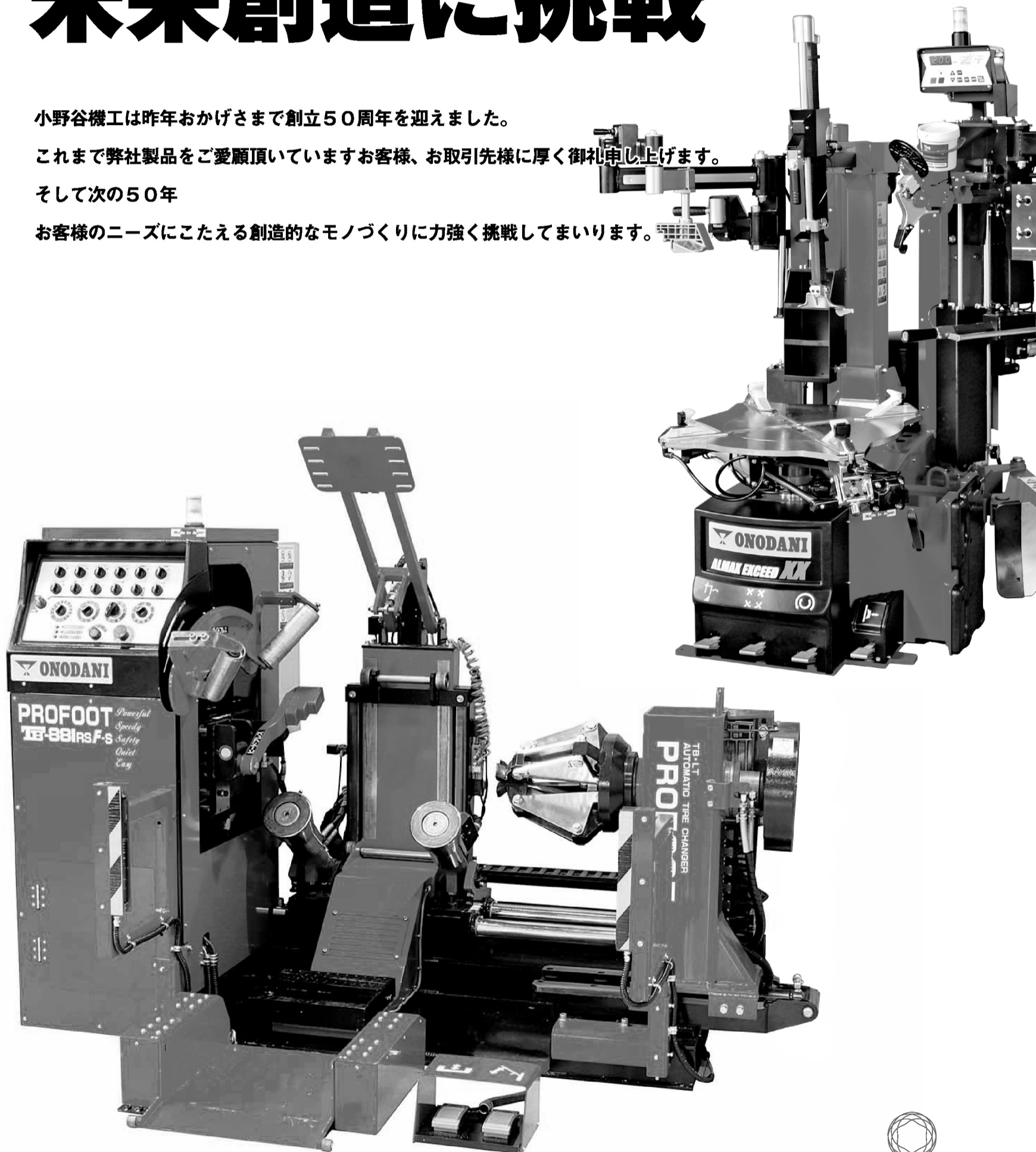
50年の感謝 未来創造に挑戦

小野谷機工は昨年おかげさまで創立50周年を迎えました。

これまで弊社製品をご愛顧頂いていますお客様、お取引先様に厚く御礼申し上げます。

そして次の50年

お客様のニーズにこたえる創造的なモノづくりに力強く挑戦してまいります。



地域未来牽引企業

小野谷機工株式会社

本社／福井県越前市家久町63-1 TEL.(0778)22-2124

札幌営業所 ☎(011)791-8588
東京営業所 ☎(03)5970-6011
福井営業所 ☎(0778)21-0335
福岡営業所 ☎(092)582-6743

仙台営業所 ☎(022)255-7408
新潟営業所 ☎(025)281-8251
大阪営業所 ☎(06)6701-7315

秋田営業所 ☎(018)800-2556
名古屋営業所 ☎(052)354-1021
広島営業所 ☎(082)943-8455

